

# サツマイモ基腐病の防除対策（育苗期～植付期） もとぐされ

本病は、現在のところ県内での発生は確認されていませんが、発生すると防除が難しく、被害が拡大するおそれがあるので、侵入防止と早期発見に努めましょう。

国内での発生状況(令和3年4月1日現在)  
沖縄、宮崎、鹿児島、福岡、長崎、熊本、高知、静岡、岐阜の9県で発生が確認されています。



なり首側からの塊根腐敗

## 病気の特徴

糸状菌（カビ）により引き起こされ、保菌した苗・イモ・残さ（葉や茎の残がい）等が伝染源となります。

## 1 侵入防止のために

- ▶ 発生地域から種イモや苗を持ち込まないでください。
- ▶ 発生地域から持ち込まれたコンテナ等は、洗浄、消毒してから使用し、作物の残さや土をほ場に持ち込まないようにしてください。
- ▶ 自分で採苗する場合は地際から5 cm以上の位置で採取してください。
- ▶ 苗消毒はベンレート水和剤（500～1000倍）または、ベンレート T 水和剤20（200倍）で30分間、苗の切り口が薬液に浸るように漬けてください（浸漬処理）。苗消毒はいずれかの薬剤で植付前に1回までの使用としてください。
- ▶ 消毒は必ず採苗当日に行い、薬液は使用当日に調製したものを用いてください。
- ▶ 種イモは症状が出ていなくても感染の可能性があります。苗の消毒を行うことで、発病リスクを軽減させることができるので、必ず実施し、購入苗も未消毒の場合は必ず消毒してください。

## 2 侵入に備えたほ場の準備

- ▶ 排水の悪いほ場では発病しやすいため、明きよ設置や耕盤破碎を行います。
- ▶ 枕畝の途中に排水溝を設置するとともに、傾斜に留意して畝を設置するなど、排水対策をしてください。



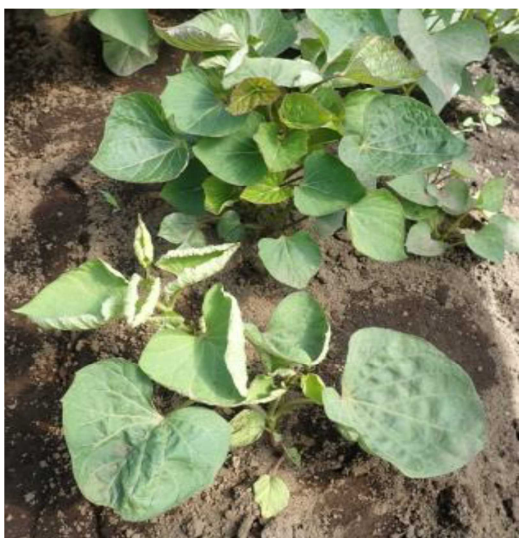
枕畝途中に設置した排水溝

- ▶ 他のほ場への拡散が懸念されるので、他のほ場へ行く前には農機具や長靴についた土は良く落とし、きれいに洗浄しましょう。

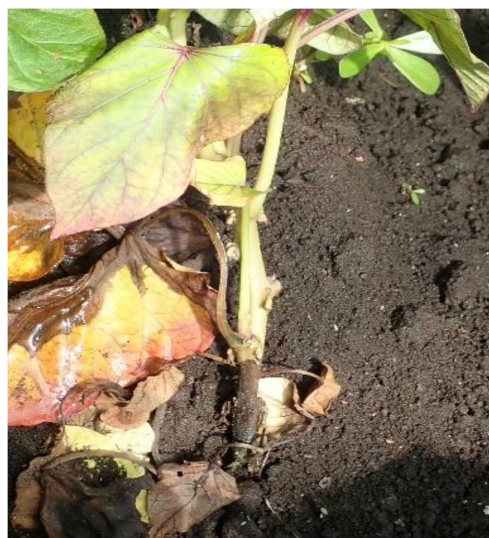
### 3 早期発見のために

- ▶ 万が一の発生に備え、作付けほ場ごとに使用した苗を追跡できるよう、苗床の場所を記録しましょう。
- ▶ 栽培中は巻葉や株の萎縮、葉の変色、株元の茎の黒変がないかよく観察し、疑わしい症状が見られたら、至急下記までご連絡ください。

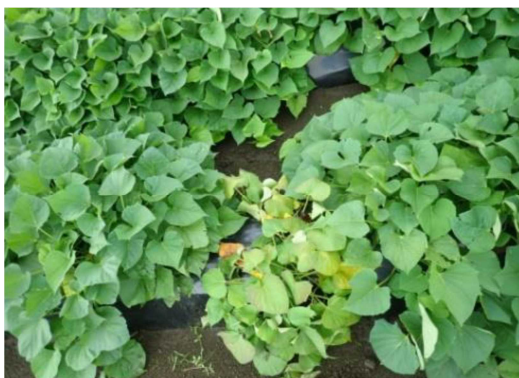
(参考)他県で発生した生育初期の症状



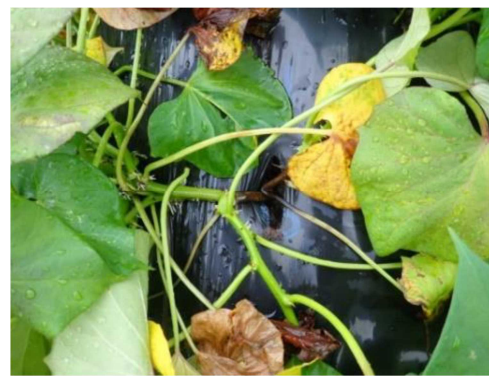
株の葉巻、萎縮症状



茎の地際部の黒変



葉が変色(赤変・黄変)した  
生育不良株



株の基部の変色  
(暗褐色～黒色)

写真出典：農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C)  
令和2年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138589.html](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138589.html)

【連絡先】 ○○農林事務所経営・普及部門 電話○○○-○○○-○○○○